

1.

2月陽だまりハイク 工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk

兵庫県尼崎市 2009.2.4.



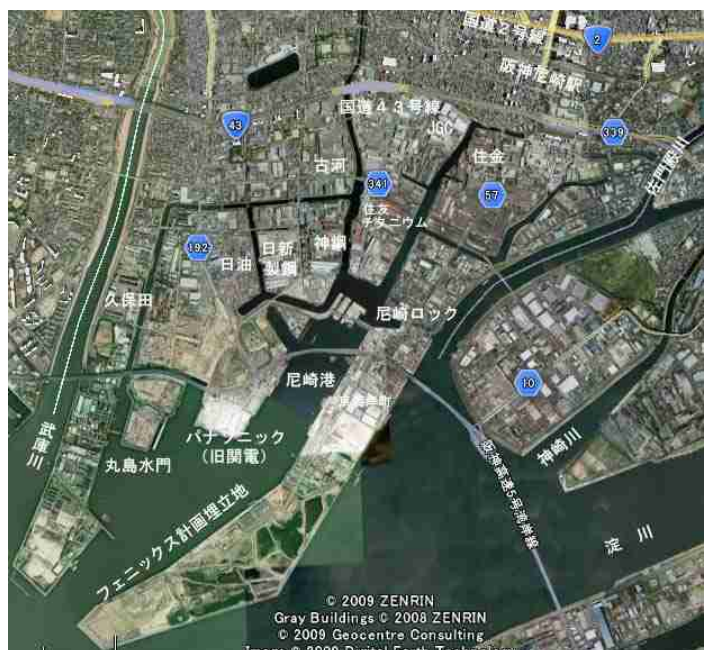
「鉄の街・工都尼崎」のシンボル 尼崎港閘門・尼ロック

日本の高度成長を支えた阪神工業地帯の中核「工都 尼崎」「鉄の街 尼崎」。ここに住む人たちは「尼崎」とは言わず、親しみをこめて、「尼」と呼ぶ。

私の故郷であり、神戸に移り住んだ後も、技術屋としての勤務地として通い続け、今も多くの仲間がいる街である。かつては公害・煤煙の町と名をはせた尼崎ですが、今「工都尼崎」から「公園都市 尼崎」へと変貌が進んでいる。日本の産業構造の変化とともに、工場街の活気あふれた喧騒の風景は消えたが、お膝元阪神タイガースの熱烈なファンがあふれる庶民の街である。

市域の南側約半分がゼロメートル地帯の「尼」では、河は自然に海へは流れず、街は防潮堤と水門に守られ、川の水は河口に据えられたドデカイ排水ポンプで海へ排水される。したがって、南の工場街につながる尼崎港に入る船は港の入口にある尼崎港閘門（尼ロック）と呼ばれるパナマ運河式の「閘門」で水位を調整して入ってくる。

もっとも 現在は海岸の地先の埋め立てが進み、防潮堤の外側にも大型船がつけられる岸壁ができている。（東海岸町）



尼崎南部 ゼロメートル地帯と尼ロック

尼崎港の閘門から港に入り、直接工場の岸壁に横付けされる数々の船の姿は 43号線のすぐ南「住友金属鋼管製造所の三本煙突」や一番南の海岸沿いにあった「関西電力の3つの発電所 6本煙突と共に「工都尼崎」を象徴するシンボル。住金の三本煙突が消え、海岸の関電 3 発電所がパナソニックの大工場にすっかり衣替えして、工都尼崎のシンボルは尼崎ロックのみになってしまいました。

現在 この尼ロック周辺は阪神間の海岸沿いを結ぶ「なぎさ回廊」として 美しい河川護岸公園として整備されていると聞いてはいましたが、長いこと出かけたことなく、また、かつてほどの活気はなくなったと聞くと、阪神工業地帯の中核 尼崎南部の工場街も、煙突が立ち並ぶ姿からは大きく変貌しましたが、健在である。

しかし、この南部の工業地帯も 阪神電車の車窓から変化してゆく姿を眺めるのみでもう十年足をふみいれたことなし。かつて「鉄鋼・機械」を中心に日本を支えたとした重厚長大の製造業がその中心を自動車・エレクトロニクスに移し、それにもまた、今 陰りの見える日本の製造業。

なぎさ回廊へ変貌をとげた尼ロックや南部の工業地帯。

「尼崎の工場街がどんな変貌を遂げ、さらに 次にこの産業都市を支える製造業とは何なのか？」

それを知りたくて、 ぽかぽか陽気の2月4日 わが故郷 尼崎の工場街から 尼崎ロックまで歩きました。

そんな 変貌を遂げた尼崎の工場街・尼ロックの写真です。

皆さんには どのように 映るでしょうか・・・



尼崎 南部の工業地帯 今 昔 インターネット写真より

騒音と煙の姿はかつての尼崎の工業地帯 活気の特徴

ハイテク化された現在の工場街は 静かさと青空を取りもどし、整然と建ち並んでいる



なぎさ回廊に整備された尼崎南部工場街とそれを結ぶ運河 2009. 2. 4.



かつての尼崎南部工業地帯 関電発電所（左写真の右手 並びに中央写真）と尼崎の南部工業地帯

1. 「工都 尼崎」南部工業地帯 尼崎閘門・尼ロックを歩く



阪神工業地帯の中核 尼崎南部の工場街風景 阪神電車尼崎駅周辺車窓より



市域の南約半分がゼロメートル地帯の尼崎 阪神尼崎駅前で GPS ロガーは標高 0m や-1m の数値を示した

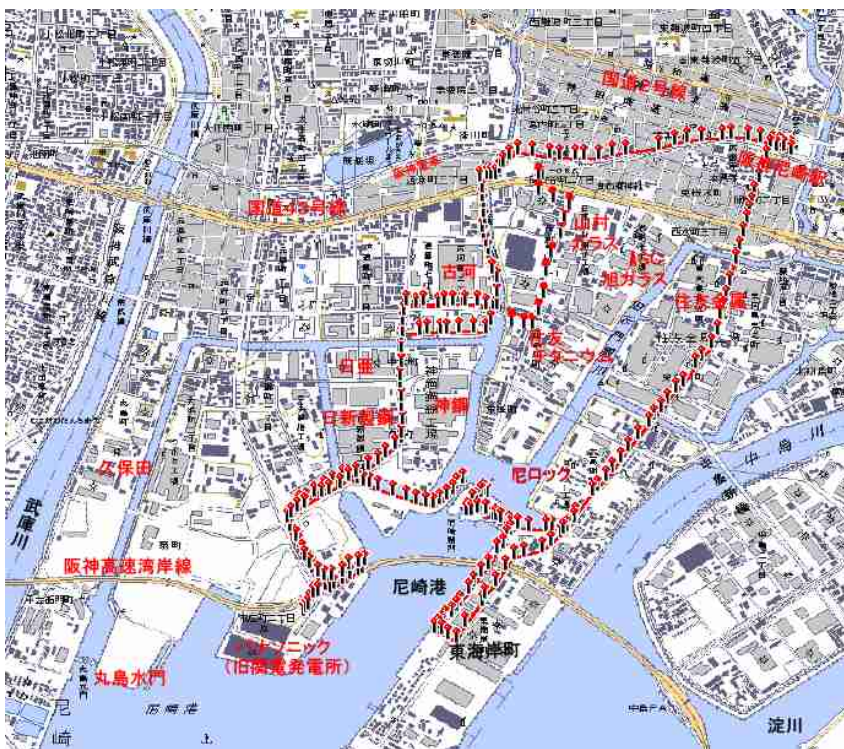
阪神電車が武庫川を渡って高架を尼崎に入るとその南側には尼崎の工業地帯が広がっている。いつも見慣れた光景である。煤煙が覆い尽くされる工都のイメージはなく、青空を取り戻した工場街が広がっている。本当に青空だけでなく、河の護岸そして工場街そして町並みが目に見えて美しくなっている。でも南の工場街にここ 10 数年足を踏み入れたことなく、今日は一日ゆっくり、南の工場街を歩くつもり。

尼崎は東から西へ 南北に流れる神崎川 庄下川 武庫川に挟まれ、東西に市域をほぼ等間隔に平行に 3 本の電車と幹線道路が走る。南の大阪地先の埋立地をかすめて東西に走る阪神高速道湾岸線から 阪神高速道が上を走る国道 43 号線までが南部工業地帯でそれより北側に阪神電車・阪神国道（国道 2 号線）・JR 東海道線・山手幹線と名神高速道路・阪急電車である。

そして、市域の約半分を占める国道 2 号線・JR 東海道線あたりまでが、ゼロメートル地帯。

1950 年のジェン台風の高潮でこの一帯が水没。幼い時であるが水没した周辺の記憶が今もはっきり残っている。

これを契機に尼崎の海岸部から川筋には尼崎を取り囲む巨大な防潮堤が築かれ、海からの水の浸入を防ぐと共に、河からの排水は河口近くに作られた水門・大ポンプ場から強制排水する体制がつくられた。一方 港にはパナマ運河方式の閘門が築かれ、海の水位から港内の河の水位へ水位調整して港内の運河・工場街に入る。



すごいものができたと活気あふれる工場街を通して 何度か見学に行った記憶がある。今は護岸をかねて遊歩道が、川筋をめぐり、美しく整備されたという尼ロック。また、そのすぐ南にはすぐ最近まで、カラフルに塗られた建物で、元気に煙突から白煙を吹き上げる関電の尼崎発電所があった。現在 ここはパナソニック PDP の主力工場に変身し、今もさらに大拡張工事が進められて、新しい産業立地として 注目を集めている。 また、かつては「鉄の街」といわれ、重厚長大産業の中核地も尼崎の青空が象徴するようにハイテク化が図られ、大きな変貌を遂げている。

今日は一日 ゆっくり工場街から尼崎港開門・尼ロックまで歩くつもりで、阪神尼崎駅前で地図をながめながら、Walk の道筋をおおまかに決める。工場街とともに忘れかけていた次ぎのようなことも思い出した。

尼崎の工場街は南部一帯に広がり、その中心に尼ロックがあるのですが、ここを境に東西二つに分かれ、国道 43 号線まで この 2 つのブロックを渡る橋がない。また、尼ロックもその中を東西に渡ることは中の勤務員でないとできない。何本も幹線道路があるといっても 工場街の交通は国道 43 号線から櫛状で、西のブロックは阪神の出屋敷駅 東のブロックは尼崎駅からなのである。(もうひとつ西に武庫川沿いの丸島・大浜のブロックがある) GPS logger を見ると標高 1m 間違いなく ゼロメートル地帯である。

1.1. 出屋敷駅から西ブロック Walk パナソニック PDP 工場⇒尼崎港開門・尼ロックへ

A. なぎさ回廊 walking Road 鉄の街 Walk

● 蓬川沿いなぎさ回廊 walking road を中浜へ



阪神で屋敷駅前



春・夏の高校野球の宿舎となる
駅前の尼宝館も健在



出屋敷から尼崎ロックまでのなぎさロード図



蓬川沿い遊歩道から北 阪神電車がみえる



蓬川沿い南へ 港へ遊歩道が整備されている

出屋敷駅のすぐ西の蓬川の両岸は緑地に整備され、工場街の堺に沿って港へ遊歩道が続く



出屋敷駅のすぐ西の蓬川の両岸は緑地に整備され、工場街の堀に沿って港へ遊歩道が続く (2)

中洲橋より 左 西高洲 左 運河南 中浜 運河北 道意

写真中央 一番奥に 南端 海の地先を東西に横切る阪神高速湾岸線が見える

空は青空 工場からの騒音 煙もなし 休日か?と見間違えうばかり かつての工場街から大きく変貌している



かつては鉄鋼業の工場が立ち並び鉄の街の中心 中浜周辺

工場のハイテク化も進み、新しい工場も建ちまると 新しい工業団「煙突・騒音の鉄の街」のイメージは消え、

美しく整備された緑の運河ロードに囲まれた「新しい鉄の街」の顔が見える



北からまっすぐ港へ 工場街を貫く幹線道路 コベルコ前 道意6丁目の交差点

工場街への自動車がひっきりなし 工場の騒音は消えましたが、ひっきりなしの自動車の列 やっぱり鉄の街である



道意と中浜をつなぐ港橋の袂に尼崎港管理事務所が建つ 玄関に子供が描いた尼崎港閘門の絵がありました
 中に入って ニロックの閘門の開閉時間を聞くが、不定期で船が寄ってくると開閉され、ここではわからぬと



針金の日亜鋼業 ステンレスの日新製鋼 ワイヤロープの神鋼鋼線 それに住金から展開したガスエアウオータ
 いずれもよく知った鉄の顔 素材メーカーで目立たないが、それぞれ鉄の高級先端企業 その健在にほっとする
 それぞれにこのハイテク化の時代への数々のドラマがあったろう。外からは見えないが、工場街の変化にそれを垣間見る
 どの工場も高潮の経験から コンクリートの高い塀に囲まれ、水害から身を守った痕跡が見える
 なんせ 平常時でも海の水位の方が高いゼロメートル地帯である



中浜の島の一番南端 鶴町の逆ト字の交差点 右手 南西へ 運河を越える高い高架橋
 この高架橋を超えると尼崎の南端 末広町

かつて 阪神工業地帯を支えた関電 ニ崎3 発電所があった末広町 いまパナソニック PDP の大工場が立つ
 この島の一番北東の端が尼崎港の入り口 ニロック・尼崎港閘門がある



閘門から港の中に入った船が通る運河を越えるため背の高い高架橋 側道から運河の際で高架橋に登る
 振り返ると今歩いてきた中浜から東の工場地帯がみえる

● 中浜と末広町をつなぐ高架橋 工場街 360 度の展望 尼崎の工場地帯が手にとるよう



高架橋の東側 運河の左沿い奥が尼崎港閘門 正面が大阪湾を渡る阪神高速湾岸線 右端 パナソニックの大工場



高架橋の正面 パナソニックの二つの大工場



西側 運河は工場街へ 工場街の向こうに六甲連山



尼崎港閘門 尼崎ロック 運河沿いに整備された公園が尼崎ロックへ続いている

正面 運河の向こう中央を横に見える水路が閘門の外 高速道路をくぐって大阪湾につながる水路で

この水路の左手 正面 建物が重なっている所が尼崎ロック 上部に広い横長窓の管制室が見える



尼崎港閘門 尼崎ロック周辺 末広町運河 左手が尼崎ロックへの道

高架橋のすぐ下に尼崎ロックへの道が見えるのですが、高架橋を渡りきって引き返さないとこの道に入れない

また 右手末広町は 島全体がクレーンが立ち並び 車が走りまわるパナソニック工場建設現場

● 関電3発電所の跡地 パナソニック 巨大なPDPライン2工場 (末広町)



尼崎の南の端 末広町 旧関電発電所跡に建設されたパナソニック PDP の2工場

阪神高速湾岸線から眺められた3つの発電所が消え、2つの長方形の箱 さらに増設工事が進められている
四角の箱は全体がクリーンルームのハイテク工場の典型ですが、とにかくドデカイ
この工場が今後どのように展開するか・・・ 日本の未来がかかっているという

B. 尼崎港開門・尼ロック なぎさ公園 (第二開門)



高架橋の下 ニロックまで、よく整備された海浜公園が広がる



a. ニロック・尼崎港開門 港内側



b. ニロック・尼崎港開門 港内側



2つある閘門の西側閘門（第二閘門）の制御室とそこから延々と尼崎の水際を巡る防潮堤



尼崎港閘門・尼ロック 第二閘門 左:港内 右:港外



水門の港内側



水門の港外側

閘門の水門は水位が高く水圧の高い港外側が弧状になっている

閘門の施設の中には入れないのと、上から全体を眺める施設がないので、全体像がつかみにくい。また、この第二閘門に並んで 東側にある第一閘門側へ簡単に行けるものと思っていましたが、それもだめでした。施設の中では ドッグの中央部両側

にすえられている門型の装置が90度回転してドッグに橋がかけられるのだろう。また、水門の上にも手すりが見えるので、施設の中ではこれを利用しているのだろう。

ハッと気がつきましたが、一般的には、43号線まで戻らぬと対岸へは渡れない。

1950年ですかから、まだ、小学生の頃 ジェーン台風の壊滅的打撃から、ゼロメートル地帯の尼崎を高潮から守るため、大防潮堤とこの尼崎閘門が建設された。そのとき 必要になった膨大な土は現在尼崎センタープールとして、競艇場になっている池。これらの施設が完成したときこの池周辺で博覧会が開催されたことと ちょっと強い雨が降ると下水管から逆流した水が溢れ出したり、なんども浸水した時の幼い記憶。

「もう巨大な防潮堤ができたから、尼崎は安全。」

「また、日本一の尼崎港閘門もできた」

何度も聞いた尼崎の生命線。騒音と煙たなびく工場街を抜けたもっと殺伐としたごちゃごちゃした場所に「閘門」があったと記憶していましたが、こんなにきれいななぎさ公園が整備されているとは まったく知りませんでした。周辺の工場街を抜ける散歩道も含め、「公園都市 尼崎」のイメージが着々と実現しているのにもびっくりです。

尼崎港閘門の響きが悪いのか最近は「尼ロック」と呼ぶのが標準。

ここまできたら 尼崎港閘門・尼ロックの全体の姿を眺めたい。反対側にやっぱり行ってみたい。帰りは、中浜まで引き返し、新たにリニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ 蓬川の東側「西高洲」「西向島」の工場街を通って、阪神尼崎駅へ。そこからまっすぐ 五合橋線を南へ東ブロックの工場街を抜けて、再度 尼崎港閘門・尼ロックへ出ることにする。



C. リニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ 蓬川の東側「西高洲」「西向島」



道意6丁目から東の西高洲を結ぶ 県道341号西高洲町周辺 西高洲町のト字交差点東側の住友チタニウム

リニューアルされたハイテク工場が立ち並ぶ 蓬川の東側「西高洲」



国道43号線と県道341号線の角 山村ガラス

国道43号線沿い東側 AGC 旭硝子

西高洲町の北側 西向島

国道43号線までもどってくるとすぐ阪神電車の出屋敷駅・尼崎駅

そのまま国道43号線を東に行って、旭硝子・住金の工場の東から五合橋線を南へ下れば、再度尼ロックである。

遅い昼食を済ませて、再度尼ロックへ行くことにして、阪神尼崎駅へ

1.2. 阪神尼崎駅から 五合橋線をまっすぐ南へ 尼崎港閘門・尼ロックへ 東向島 住金の工場街を抜けて 大高洲・東海岸町へ (東ブロック Walk)



五合橋より南 東向町 住金工場街



尼ロック 第一閘門の水門



阪神尼崎駅前

かつて、阪神尼崎と JR 尼崎の駅前に 標高と共に 台風時の水位を示す標識があったのですが、今は防潮堤に守られて無意味になったのか なくなっていました。

遅い昼食を摂って、次は東側から尼崎港・尼ロックを目指す。技術屋として 何度も入った住金鋼管製造所の工場が立ち並ぶ一角。(東向町) 随分 新しい分野の工場や中身が変わったと聞いていますが、工場は本当にふるいのですが、リフレッシュされ、今も石油掘削用油井管や耐熱ボイラー用鋼管などの世界のトッププラント。また、その南 東高洲・ 尼崎ロックのある大高洲を通過、一番南 防潮堤の外側にはフェニックス計画処分地で埋め立てられて、東海岸町の新しい街ができ、尼崎港閘門を通らずに大型船が接岸できる埠頭や工業用地・物流拠点ができている。

もう、新しい街というより、出来上がって 数十年たっていますが、「尼崎」にとっては リニューアルされた新しい街のひとつです。

通いなれた地区 この東向島・東高洲・東海岸町の工場街を結ぶ道路はその中央をまっすぐ南へつらぬく、五合橋線のみ。やはり、西ブロックとおなじ。往復せねばならないので、阪神尼崎駅からタクシーで大高洲まで行って、そこから尼崎港閘門・尼ロック Walk (東ブロック) をはじめる。



五合橋から南 五合橋筋の工場街

国道 43 号線を渡って築地の古い町並みを抜け

五合橋を渡るともう居住区はなく、海まで工場街が広がる

A. 大高洲 東浜 尼崎港閘門・尼ロック 第1 閘門



大高洲から 旧防潮堤に沿って 西へ 右手奥に尼崎港閘門・尼崎ロックがみえる



大高洲 旧防潮堤



尼ロックの手前 東浜排水場



内港・河川の水を海へ排水する巨大配水管

旧の尼崎の南端 大高洲の信号のところで降りて、尼ロックへ。旧の防潮堤の南側にも街ができ、南側は防潮堤の高さに埋め立てられているが、旧の防潮堤の内側は本当に低い。

「底」の感じがする。この防潮堤の先に尼ロックが見えている。この旧の防潮堤の内側に沿って西へ 300m ほど行くと 四角い建物の壁から地中へ逆 L 字型に巨大な配管が 5 基突き出している。 尼崎港閘門・尼ロックに隣接して設けられた東浜排水場である。

防潮堤の高さとこの巨大排水管から、この一帯がゼロメートル地帯であること思い知らされる。

この防潮堤の向こうは海である。

実は入り口のところに立入禁止の札があったのですが、人っ子一人おらず、門も開いていたので、管理事務所で受付すれば良いと思って入ってきました。

後で判ったのですが、この尼崎港閘門・尼ロックの東側施設域に立ち入るには、尼崎港管理事務所で事前

の申し込みが要るようです。（ 朝 西側ブロックにある尼崎港管理事務所に立寄りましたが、 そんなこと 一言も出ませんでした。……。

また、港管理事務所へ行くとなると これまた大変。 グルーッとひとまわりです。 ）



東浜排水場 の巨大排水管 5 基並んでいる

防潮堤で市域を囲まれた尼崎

北市域の排水を武庫川に流す排水場がほかにあるが、市域の南部分の排水・河川・尼崎内港の排水を受け持つ巨大排水官である



東浜排水場

尼崎港閘門集中コントロールセンター

排水場の横を抜けるとパッと視界が開け、内港が見渡せる尼崎港閘門・尼ロックの駐車場広場

(写真は内港の中に浮かぶ 尼崎ロック の敷地 北側から 左手の建物の間を抜けてきた。
右手の集中コントロールセンターの裏側が尼崎ロック。 白い建物が第一閘門の管制室である)



尼ロック諸施設 案内板



地盤沈下計測所



集中コントロールセンタ 後 第一閘門



尼ロック 第一閘門 2009.2.4.



管制室

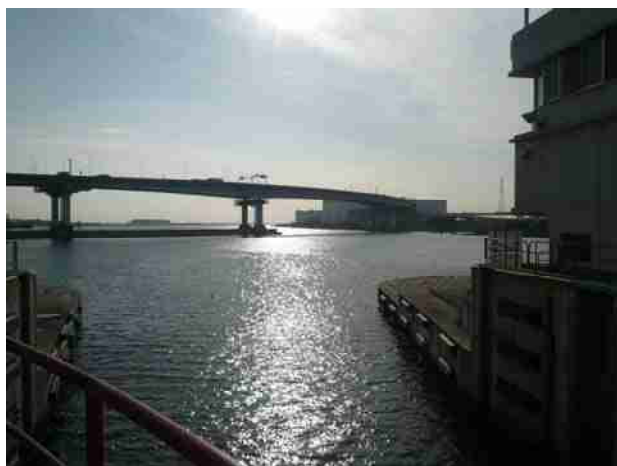
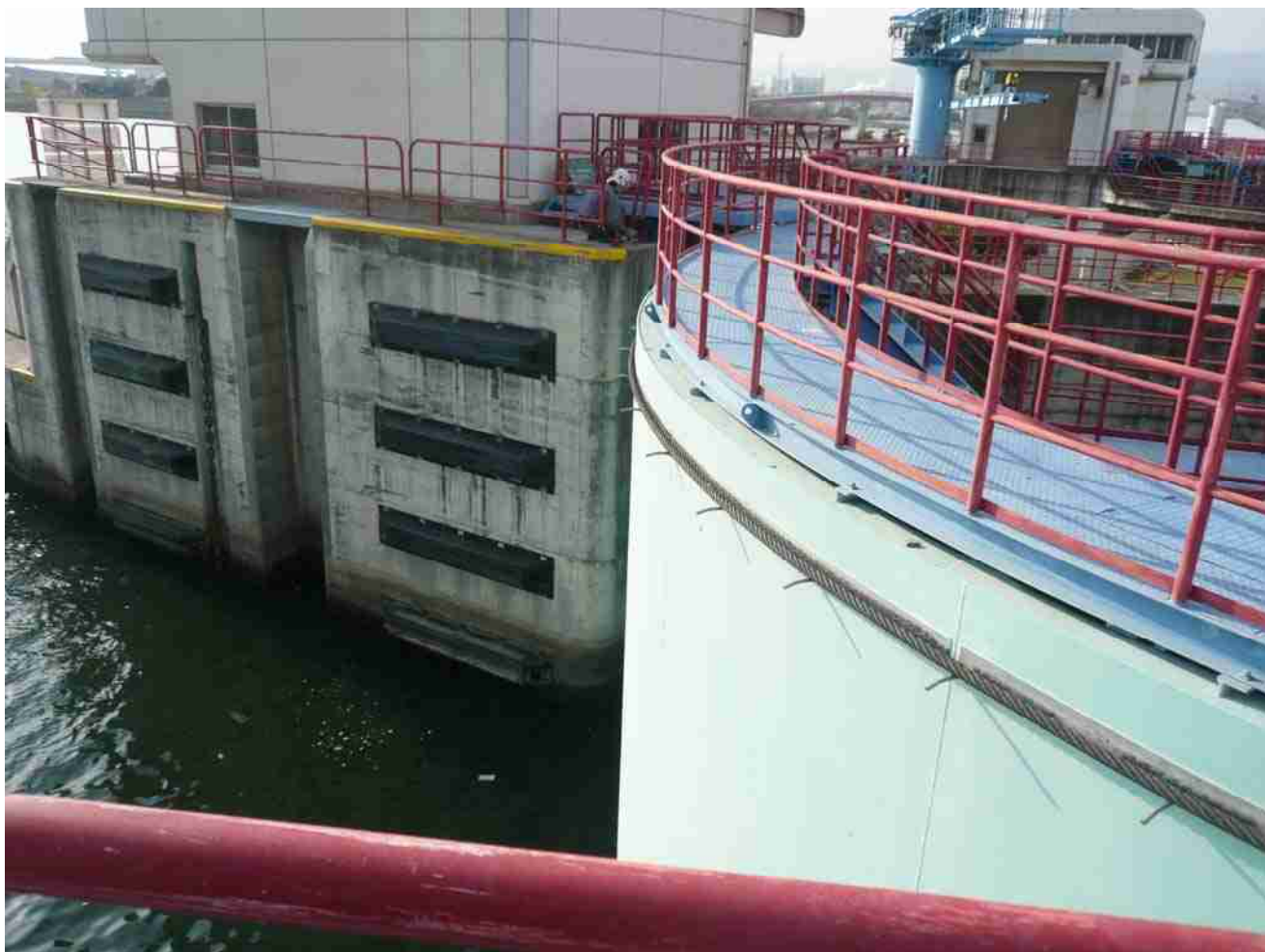


外港側 水門



内港側 水門

水門の上で補修手入れをしている勤務員の方が見える。 唯一の人。集中センターの中に入って、上方から閘門見られないかと尋ねると「事前見学申請しないとダメだ」という。 名前をのって「水門と海側の写真だけ取らせて」とちょっとだけ水門に登らせてもらった。 銚子で利根川河口の逆水門の上を何度も通ったことがあるが、閘門の水門の上へ立ったのははじめてである。



尼崎港閘門 第一閘門の水門の上から 2009.2.4.

海水面が見えるが、本当のところ ドックの中との水位差はよくわからない。でも、一番見たかった景色である
手すりはあるもののやっぱり ドデカのと 足がすくむ



尼崎ロック 尼崎港内側

B. 尼ロックから 防潮堤の外側 東海岸町 埠頭へ



大阪湾側から 尼崎港 閘門・尼ロック 2009.2.4.

尼ロックをでて、防潮堤を越えて南 東海岸町 岸壁沿いに歩いて 阪神高速湾岸線 高架橋周辺から



右手 尼崎ロックをセンターに両側に防潮堤が延びる 左 海を挟んで阪神高速湾岸線 奥にパナソニックの2工場



大型船が接岸できる東海岸町の公共埠頭 対岸にパナソニックの工場が見える 2009.2.4.



大型船が接岸できる東海岸町の公共埠頭 周辺

高潮を防ぐ防潮扉

防潮堤の外側の埋立地であるが、岸壁にはやはり防潮扉が敷設されていた

C. 東海岸町からまっすぐ北へ工場街を歩いて 阪神尼崎へ



大高洲の信号前から 北へ 五合橋線

2009.2.4.



大高洲と東高洲をつなぐ東高洲橋 片側開閉橋であるが、最近実用されるのを見たことがない 2009.2.4.

ここから北 東高洲・東向島は住金鋼管製造所とその関係会社が立ち並ぶ。以前この中を仕事でよく、歩き回ったものである。

ここまで 帰ってくると 昔の記憶が次々よみがえる。

この一角に三菱電線の工場 ひとつだけが食い込んでいる 今はどのようになっているのだろうか??



東高洲・東向島 道の両側には住金とその関連会社の工場群 三菱電線の工場も健在

見慣れた光景であるが、ここでも 高潮防止の高いコンクリートの塀が両側に続く

かつては この一帯に入るとパイプとパイプがぶつかり合う甲高い「カンカン」という音がしたが、今は静かなもの

また、工場のシステムが変わったのか ひっきりなしに道路を渡って、反対側の工場へ入るトロッコ気動車もなし。

中を見ることはできませんが、100 年の工場群。この工場群の上にはかつて空高く 3 本の煙突がそびえ、「三本煙突」と誰もが知っている光景でしたが、それがなくなったのが、ちょっとはさびしい。それが、工場を大変革させたのかもしれませんが……。

ひっきりなしに通る車と騒音 そしてよどんだ空と運河 そんなイメージが頭にありましたが、本当にすっかり変貌です。

工場街の一番北端 築地橋を渡ると 築地の市街地 昔の尼崎の中心街の一角。すぐ北を 43 号線が走り、これをクロスするとまもなく、阪神尼崎。尼ロックをめぐる Walk の終了です。



1.3. 尼ロックを歩いて 100 年近い鉄の街 尼崎の工場群が語るもの

「工都 尼崎」から「公園都市 尼崎」へ。

「尼崎の街の光景はすっかり変わった」といわれながら、十数年足を向けなかった南部尼崎の工場街。

「三本煙突」も消え、南の関電の発電所も消え、「工都 尼崎」の看板も「公園都市」へ

もう 昔 水害におびえた尼崎 防潮堤と尼崎港閘門が支えた「鉄の街・工都尼崎」の繁栄というか猛烈な時代を知る人も少なくなりました。街の記憶がなくなる前にそんな「工都 尼崎」の工場街を歩いて しっかり記憶にとどめておきたいと。

尼崎の工場街を自分の手でファイルに収めておきたいと いつも ふいに 頭にもたげるこの思い 今回やっと実現できました。

日本の高度成長を支えた工都 鉄の街 尼崎。

パナソニックが来たと沸き、工都がマイナスイメージでしか捉えられず、強欲弱肉強食のエレクトロニクス・自動車がもてはやされる産業界。でも このパナソニックもそれほど勢いがあるかどうか 疑問の時代。

しかし、50 年をはるかに越える時代を生き抜き、地域を支えた鉄の街がある。そう簡単には崩れない。

今も しっかりと街を支えているだろう。

次の工都を支える産業・製造業を 今 考えねばならぬ時代・・・ そんな知恵が「鉄の街」にはあるだろう・・・と。

「鉄の街は今？」である。

「百年を生きる企業にはそれを生き抜いてきた「知恵」が必ずある」 そんな知恵を調べた本を読んだことがある。

「理念」と「行動指針」というと薄っぺらになりますが……

屁理屈を言うとなんところで

一日 尼崎を支えてきたシンボル 尼崎港閘門・尼ロックを中心に南部尼崎の工場街をほつつき歩きました。

まずびっくりしたのは「工都 尼崎」 工場街の変身。

「工都 尼崎」から「公園都市へ」といっても そんなに簡単に街のイメージがかわれるのか?と内心思っていました。しかし、「公害・煤煙・騒音そして薄汚れた街」そんな「工都」に描くイメージは吹っ飛んでしまいました。

「公害・煤煙・騒音そして薄汚れた街」など どこにもなしです。

空と水の青 煤煙・騒音もなく、砂を巻き上げていた道は緑の並木へ。 鉄の街は完全に変身です。

イメージ的には新しいハイテク工業団地とまったく変わらない。

街の中心から 運河・工場街を抜けて続く walking road は本当に快適で私のイメージも変わりました。

激動のこの 10 数年 企業が変身したのは当然といえば 当然。数々の知恵が駆使され、工場街も変身です。

でも 街は変わりましたが、その中身はよく知った昔からの工場がほとんど。

「鉄の街」は変貌を遂げながら、この激動の時代を生き抜いた。

百年企業も数多く含まれる。

住む人たちからも忘れ去られようとしながらも 尼崎港閘門も 響きが悪いのか? 尼ロックに名を変え、

防潮堤と共にそこにしっかりと尼崎を支えている。



「鉄の黒光り」という言葉があるが、まさにそれ。鉄の街に「鉄の黒光りの知恵」それが「ものづくりの知恵」だと。

名前の知った工場を見るたびに そこに通った仲間・先輩を思い出しながら そんなことを考えていました。

黒光りの鉄が培ったものづくりの考え方が 見直される時代が 必ず来るだろう。

それを受け継ぐのが 鉄の街 尼崎 であってほしいと。

「工都 尼崎」から「公園都市 尼崎」へとはなんと軟弱な・・・とおもってきましたが、これは両立できる。

私もこれから「黒光りの鉄」のイメージをこれにかぶせようと……………。

名所旧跡もいいですが、自分の身近な工場街がこんなに素晴らしいリフレッシュ空間になっているとはじめて知りました。お勧めです。

2009. 2. 4. 夕暮れの阪神電車の車窓から 「尼」の工場街を眺めながら

Mutsu Nakanishi

尼崎開門(尼ロック)の概要解説

鉄の街 工都「尼崎」のシンボル 尼崎港開門(ロック) 2009.2.4.

市域の南側約半分がゼロメートル地帯の尼崎 そのゼロメートル地帯を水害から守る尼ロック

市域を取り囲む強固な防潮堤・水門・排水ポンプ そして 尼崎港開門



市域を取り囲む防潮堤



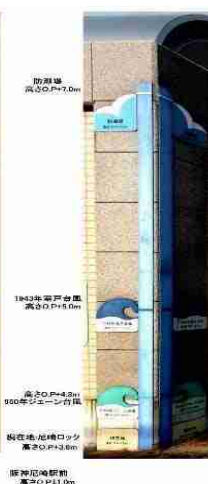
尼崎港開門



排水場 海への巨大排水管



尼崎の土地の高さ模式図



尼崎港第一開門 水門

尼崎閘門（尼ロック）

国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 home page より 再整理

http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kobegicyo/omona/cate2_2.html



海に囲まれた日本は、常に高波や高潮などの自然の脅威にさらされています。そこで防潮堤や護岸、水門などの海岸保全施設によって、港湾の施設や背後の用地を守る必要があります。「閘門」もその一つです。

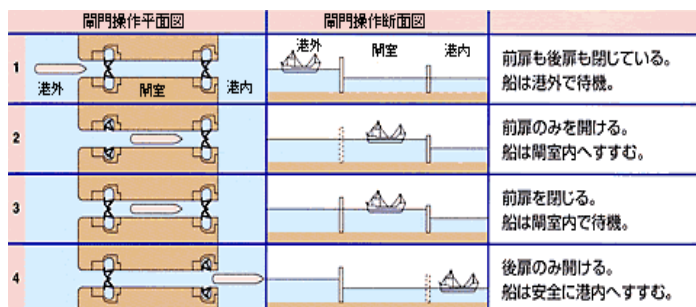
■ 大被害をもたらしたジェーン台風を契機に建設

50万人の人口を有する尼崎市は、市域の大半が「海抜ゼロメートル地帯」で、台風による高潮や波浪の猛威を幾度となく経験してきました。そのために、高潮の侵入を防ぐ護岸・水門の整備が急がれ、高潮対策を図るため、閘門式防潮堤の整備を行い、昭和29年度に第1閘門が、昭和39年度に第2閘門が完成しました。しかし、完成した閘門施設もその後地盤沈下や施設の老朽化が目立ちはじめたため、昭和61年度から抜本的な改良工事が開始されました。



改良工事は、旧閘門を供用しながら行うので、2基ある閘門を1基ずつ完成させる方式をとり、1基目は、平成6年度に完成し、平成14年度2基目の改良工事が完成。現在 新たな機能を備えた第一・第二の二つの閘門が稼動している。

■ 閘門のしくみ



■ 海と陸の関係



■ グレードアップした機械設備

門扉等の機械関係設備については、旧閘門の機能・構造材質などを徹底的に検証し、開閉装置の構造簡略化をはじめ、使用材料・制御設備の変更を図るなど、メンテナンスの容易な安全性の極めて高い閘門設備へと改善。

新第2閘門（平成6年度完成）



門扉取付状況



■ 情報施工によるドライワーク工法の採用

改良工事は既存施設を供用しながら、しかも防潮ラインを常時確保しつつ工事を進めるため、仮締切堤によるドライワーク工法を採用しました。そして作業中の安全性を確保するため、堤内の水位変動や仮締切堤の挙動を常時把握しながら施工を進める「情報化施工」を実施しました。



■ 集中コントロールセンター

尼崎閘門をはじめとする高潮の侵入などを防ぐ護岸・水門などの施設を最新鋭のデジタル電送網を利用し、常時監視制御（遠隔自動操作）ができる集中コントロールセンターを建設。

集中コントロールセンターは、施設周辺の閘門・東浜排水機場だけでなく、尼崎地区に点在する排水機場・水門・陸閘・樋門の遠隔操作、及び監視確認や河川上流の雨量情報収集など、地域の防災データを瞬時に把握し、さまざまな施設の制御しています。

樋門



陸門



水門



■ 防災システム全体系統図

